

2024年2月17日

国際ロータリー第2540地区
ロータリー米山記念奨学委員会
2023-2024年度
委員長 呉宮 廣哉 様

秋田北ロータリークラブ
米山奨学記念委員長
三浦崇暢

2023年度ロータリー米山記念奨学生「ハーティ フォン ニュン」卓話報告

去る1月30日火曜日、当クラブの例会に米山記念奨学生 ハーティ フォン ニュンさんをお呼びし、卓話をしていただきました。世話クラブである大曲ロータリークラブのカウンセラー伊藤会員にもご同行いただきました。

ハーティさんには、自己紹介、自国のこと、日本語の勉強、秋田での生活のこと大学での研究のことなど多くのお話しをしていただきました。以前、ハーティさんはお母様の勧めもあり、医者を目指し勉強をしていたそうです。ベトナムの医学大学への進学も決まった際自分が本当に医者になりたいのか葛藤があったと話しておりました。そんな時、ある人との出会いが自分の進路を大きく変えてくれたそうです。その人は、経済的に困窮しているにも関わらず、勉学に励み、遂には日本語学校の奨学金をもらうまでに至ったそうです。そして日本に留学をし、さらには就職も叶い、人生が変わったんだと、ハーティさんに話をされました。そんな知人を見て、その人の人生観に惹かれた結果、自分も自身で道を切り開き、己のしたい事などを自分で見つけることのできる人間になりたいと思い、ベトナム医学大学入学を辞め、日本語の勉強、そして日本留学を決めたそうです。

それからは日本の大学に入るべく、朝5時から夜11時まで日本語や日本文化の勉強に励みました。とても厳しい日本語学校だったようです。その後、東京で1年半を過ごし、そして秋田大学に入学することができたそうです。

しかし、秋田に来ていろいろと困ったこともあったと話しておりました。秋田は東京に比べて田舎であるし、冬は寒いし人も少なく寂しい、友人もいないし、遊びに行ったりもできない、など様々な点で苦労があったそうです。しかし、時間が経つにつれて少しずつ変わってきました。一番の契機は3年生になってから、つまりロータリーに入ってからだそうです。ロータリーでは、日本文化（お茶や着物）の体験や秋田観光、大曲の花火、奨学生やカウンセラーとのボーリング大会があったことがとても嬉しく感謝しております、とのことでした。

今後ロータリーに求めることとしては、地域体験や文化体験の機会を増やしてほしいことや、他の奨学生との交流機会を増やしたり又は定期的にやってほしい、ということでした。奨学生同士が交流する機会があまりないのは勿体なく残念でもあると話しておりました。

ハーティさんは、薬剤を減弱させるための研究を行っているということでしたが、今後勤めたいところは研究とは別の路線だそうです。いままでの勉強や体験してきたことを活かして、明るく元気に自身の道を歩んで行ってほしいです。

以上